

4月22日(金)

● ほとけの子御遠忌法要
〔10時～13時〕

● 「同朋のつどい」坊守とともに
〔13時30分～16時30分〕

4月23日(土)

● 青少年の集い
〔9時～15時〕

4月24日(日)

● 「子ども御遠忌」法要
〔11時～12時〕

● 音楽法要
〔14時～〕

4月22日(金)～24日(日)

● 井上雄彦氏作
屏風『親鸞』展示会
〔10時～16時〕

● 小林憲明氏
「ダキシメルオモイ」展
〔10時～16時〕

● ほとけの子絵画展
〔10時～16時〕

22日(金)

ほとけの子 御遠忌法要

とき 10時～13時(受付/9時30分)
ところ 本堂

● スケジュール 10時～法要(於/本堂)
12時～アトラクション
(於/東別院ホール)
法話(於/本堂下広間)
13時 終了予定

口を開けるほどに無心となる子どもの姿は、はかりのない仏の姿です。その子どもが、手を合わせ、口から「なむあみだぶつ」とお念仏をこぼすと、そこに居合わせた大人は、手を合わせずにはおれなくなり、幼き求道者の導きは間違いなく阿弥陀様のおみりです。

みひかりのもと、大人も子どももともにこの法要を御縁に、忘れることのできない大事をお味わいいただき、身につけていただけたら、と願っております。どなた様も、どうぞお参りください。
(祖父江佳乃)



※未就学児に記念品有り。
● ほとけの子絵画展(4月22日～5月1日/対面所廊下)

同朋のつどい 坊守とともに

とき 13時30分～16時30分
ところ 本堂

● 内容 勤行・講演・詩の群読
● 講師 藤川幸之助氏(詩人・児童文学作家)
● 講題 「支える側が支えられるとき」
「認知症の母が教えてくれたこと」

年若い認知症を患い、人格を失っていく母。それは誰しも起こりうることです。藤川さんは、子として、息子として、人として抱く心の葛藤・痛み・苦しみ・悲しみ・苛立ち湧き上がる感情を詩に綴ることで、言葉もなく静かに死に向かう母に寄り添い見守り続け、見送ることを受け止めました。その壮絶な23年間にわたる介護生活を経験した彼の語りから見えるものは、まさしく「ともに生きる」いのちのつながりです。いま一度、この「わたし」を見つめ直し、ともに支えあい、ともにつながり生きていくことの大切さをともに確かめ合いませんか？



意に染まないことを拒むことより受け入れることによって見えてくる道がある
藤川幸之助氏
『命が命を生かす瞬間』とき
(東本願寺出版)

23日(土)

青少年の集い

とき 9時～15時
ところ 本堂

浄土真宗関連学校である名古屋大谷高校、豊田大谷高校の生徒・教職員が御遠忌法要にお参りします。宗教とは何か、私たちが帰依処としている「ところ」はどこなのか。高校生が本堂に一堂に会し、「正信偈」同朋奉讃をお勤めして、親鸞聖人に思いを馳せ、自分自身を見つめます。



24日(日)

子ども御遠忌

とき 11時～12時(法要)
ところ 本堂



本堂で子どもたちとともに「正信偈」をお勤めし、「キャラクター法話」を聴聞する法要。境内で「子ども広場」、別院界隈をキャラクターと一緒に歩く「子どもパレード」も開催。23日(土)からのお泊まり会「みんな集まれお東つ子」では、お念珠やミニチュアお華束などを一緒につくります。
※「子ども広場」、「子どもパレード」の詳細は、23ページをご覧ください。

音楽法要

とき 14時～15時
ところ 本堂

今回の音楽法要は、新実徳英氏(作曲家・東京音楽大学客員教授)の指揮により、氏が作曲された楽曲で勤修いたします。約270名の大合唱団による法要です。本堂に響く「仏教讃歌」を歌い、その念仏讃嘆の声に耳をかたむけて、親鸞聖人のお言葉にふれて手を合わせの機縁としませんか？
楽器協力：名古屋音楽大学



【曲目】

- 1 出仕曲
- 2 着座曲
- 3 総礼
- 4 登高座曲
- 5 三帰依
- 6 表白
- 7 散華曲
- 8 下高座曲
- 9 総礼
- 10 正信偈(和訳正信偈)
- 11 念仏・和讃
- 12 回向
- 13 総礼
- 14 退出曲



新実徳英氏
(作曲家/東京音楽大学客員教授)
撮影：近藤 篤